



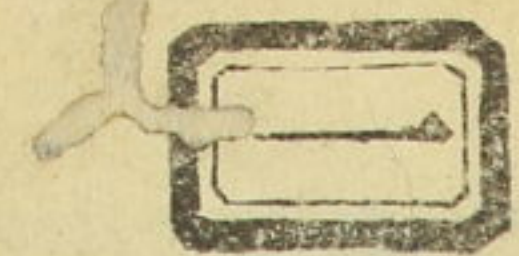
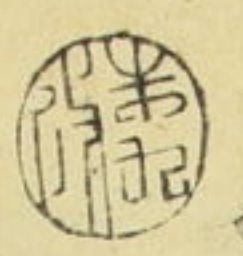
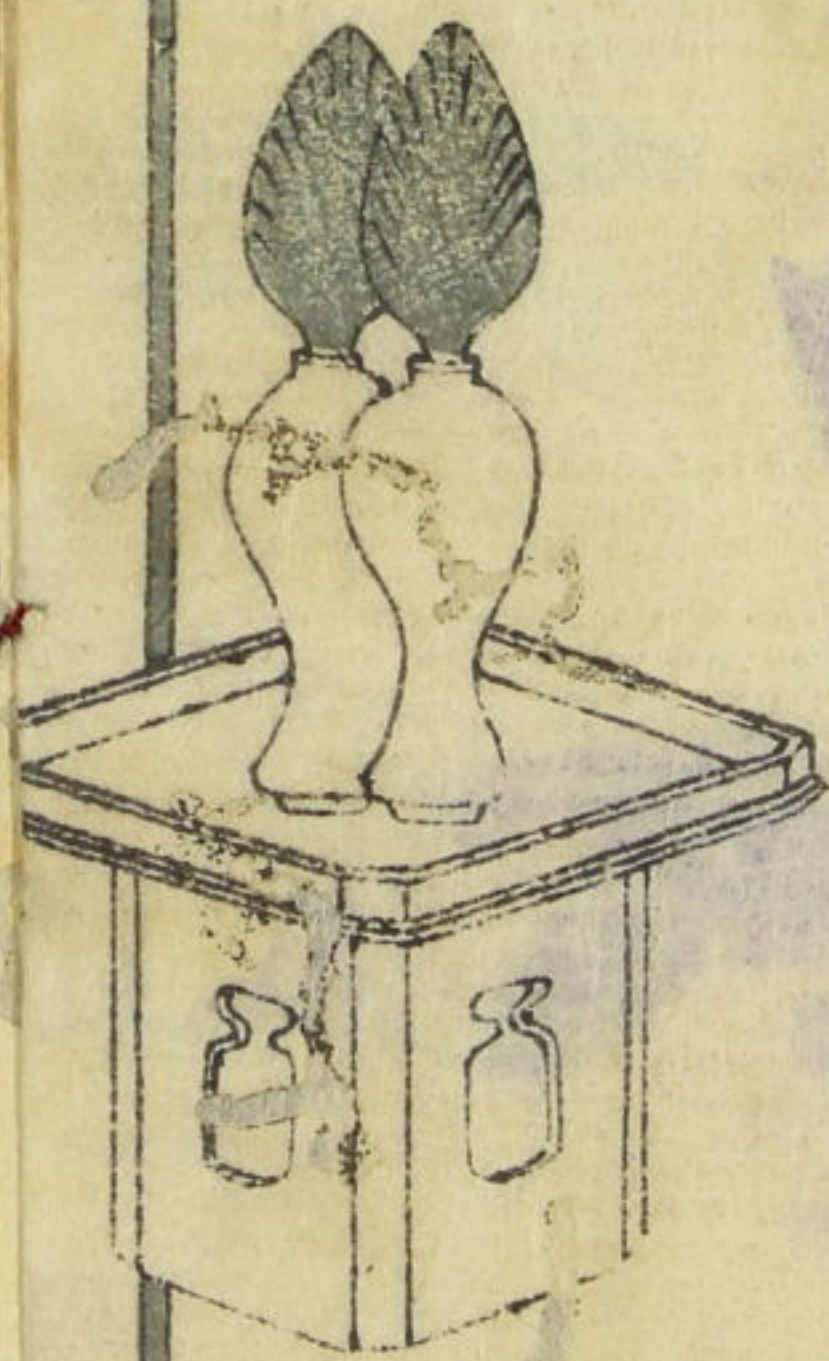


氣 祠 通 來 禪

柳 亭 抄 卷 第 一 書

知 侯 寺 多 子 傳

二 巻



のそぐもの居るゆると往來を平で歩くと聞爰ゆる獨  
徒者凡世間わのれ程徒と働く責ありし名高き合巻の  
次編を引請拙き趣向を加ふる事喚や柳亭のあの世よて只  
情ある思はれるんが氣の毒と毒らまが血迄成りと二袋二袋  
三べん次で大尾ふまよと余程長かりし物語りを十年の昔  
一飛小間を退し車あはれ定め何處へ行届るぬ筋合く  
多く可有はは是は學者の見給ふべき書物の類小あ  
ざればと馬喰町ゆり似寄りし南傳馬町の葛吉主人が本家  
板元請合あはれ地獄落し仕掛ある食類を引出し心地し  
ころく綴りて候

柳葉舎おどり子球



ヨ凡司十



再山  
山邊友吹



再出  
腰元市村





物産會

四



白木

三















# 竹葉舎綴

# 國政山圖



# 寶母散

中橋南傳馬町東側  
千葉堂葎轉製  
さんぜんさんご  
ふんちのち  
一切のめ菜

# 柳蔭月朝妻

十編 大尾  
山々亭有人作  
梅朝樓國貞画

# 藪黄鵬八幡不知

十編 大尾  
山々亭有人作  
錦朝樓芳席画

# 阿玉池櫛月形

五編 大尾  
山々亭有人作  
一陽齋豊國画

# 地本綿繪團扇問屋

紅英堂 葎吉



~13  
4325